

農政の動き 2015年10月16日～10月22日

◇飼料用米の生産コスト低減マニュアル策定へ◇

農林水産省は、「飼料用米生産コスト低減推進チーム」の会合を開き、年内にも生産現場の先進事例などを踏まえた生産コスト低減マニュアルを策定・公表することを決めた。2016年産からの活用を念頭に、図表や写真なども使って簡潔に整理する。ホームページで公表するほか、都道府県などを通じて生産現場で広く周知する方針だ。なお、政府は、飼料用米の生産コストを25年までに5割削減する目標を掲げている。(2015年10月16日)

◇15年の果樹栽培面積 大半の品目で前年下回る◇

農林水産省は、2015年の果樹の栽培面積を発表した。ミカンは前年比2%減の4万4600㍓、リンゴは1%減の3万8600㍓、柿は2%減の2万1400㍓、クリは2%減の2万300㍓となるなど大半の品目で前年を下回った。ブドウは1%減の1万8100㍓、ウメは2%減の1万6700㍓、ナシは3%減の1万2800㍓。モモは前年並みの1万600㍓で、唯一前年を上回ったパインアップルは8%増の530㍓だった。また茶の栽培面積も公表し、2%減の4万4千㍓となった。(20日)

◇15年産米の1等比率は81.2%(9月3日現在)◇

農林水産省は、2015年産の水稲うるち玄米の1等比率は9月3日現在で81.2%と発表した。前月末比では8.3ポイント上昇し、前年同期比も2.0ポイント上回った。2等以下への格付け理由は、着色粒(カメムシ類)が27.9%、心白と腹白が27.8%、整粒不足15.8%、充実度12.4%など。(20日)

◇16年産国産小麦の播種前入札落札率94.3%◇

全国米麦改良協会は、2016年産民間流通麦の播種前入札結果を発表した。小麦は24銘柄21万3360㍓が上場され、落札は24銘柄20万1140㍓。落札率は前年産比12.1ポイント増の94.3%となった。加重平均のトン当たり指標価格は5万152円で、15年産の落札価格に輸入小麦の価格変動率などを事後調整した基準価格比では、2962円(6.3%)高い。小粒(六条)大麦は、上場11銘柄1万2210㍓のうち、11銘柄1万2090㍓が落札され、指標価格は基準価格対比15円安の4万4042円。大粒(二条)大麦は上場5銘柄7450㍓のうち、6600㍓が落札され、指標価格は1749円高の4万4284円。はだか麦は、上場3銘柄2740㍓のうち2520㍓が落札され、指標価格は953円安の4万3099円だった。(21日)

◇TPP大筋合意撤回求め農民連が官邸前行動◇

環太平洋連携協定(TPP)大筋合意の撤回と、米価対策を求め、農民運動全国連合会(農民連)は10・22官邸前行動を実施。全国から農家ら約100人が集まり、首相官邸前で「合意内容は国会決議を踏みにじっており、断じて認められない」「政府は日本人の食料を国内でつくることを放棄したのか」「国会は日本農業を犠牲する合意内容を許すな」などと声を上げた。(22日)